



第65号 富水地区まちづくり ふれあいだより

発行日 令和5年4月8日
発行 富水地区まちづくり委員会
広報分科会会長 村越一馬
事務担当 小田原市役所地域政策課内
住所 小田原市荻窪 300 番地
電話 0465-33-1389



歴史と文化を訪ねる散歩道

講師:小田原市文化財課学芸員 保坂 匠 氏

3月19日富水地区まちづくり委員会地域振興・環境美化分科会が主催する標記の講演会が開催されました。スタッフを含め53名が参加。

富水地区に点在する神社・仏閣・石造物など30カ所50点の文化財をスライドで紹介していただき、私たちの先祖がどんな願いを込めてそれらを祀り、大切にしてきたかを解説していただきました。

まさに「灯台下暗し」で、はじめて見聞することも多く、訪ねてみたいという気持ちに駆り立てられる内容でした。その中から特に印象に残ったことを3つにまとめて紹介します。

1.庚申塔は、三尸駆除の記念塔

人体に宿る三尸という虫が、60日ごとの、庚申の日の夜に体内から抜けだし、宿主の罪業を天帝に報告し寿命を縮めていく。庚申の夜に宿主が寝なければ、三尸は人体を抜け出せない。そこで村人は講仲間を作って、庚申の晩に集まり、おしゃべりや勤行で夜を明かすという行事が生まれた。18回の講を重ねて3年を経ると、請願成就で庚申塔が建てられたという。

新屋稲荷神社境内にある自然石の板碑の庚申塔は、富水地区では最も古く1658年建立と刻まれている。友愛幼稚園そばの旧道に建っている三基の庚申塔は、真ん中が文字塔で1697年建立と一番古く、両端の三猿と青面金剛の彫りがある石塔はそれより新しい。これは仏教信仰と相まって青面

金剛を庚申塔の主尊とした時代が、新たに現れたことを物語っている。

2.路傍にたたずむ道祖神の種類

1月14日に行われる「どんど焼き」が道祖神と密着した火祭りとされているのは、関東甲信越と鳥取県だけだそう。しかも、小田原の南鴨宮と前川では、道祖神祭りに、提灯や人形を飾った山車が曳かれるが、小田原と群馬県の高崎にしかない珍しい様式だそう。

石造の道祖神の種類には、双体像や文字碑がある。府川にある八街道祖神には、八衢彦命・八衢姫命という神名が刻まれている。この二神は、古事記において道俣神(分かれ道に立って守る神)として登場しており、日本神話に登場しない道祖神を神道に位置づける神として祀っている。さらに、天孫降臨で道案内役を果たした猿田彦神(天狗の顔を持つ)も道祖神として祀られることがあるそう。

北ノ窪の1987年建立の線彫双体像の道祖神は、小田原市の有形民俗文化財に指定されている。

新屋下にある道祖神は、造立年の刻みはないものの、台座にのった双体像の上に破風のようなでっぱりが付いているのが特徴で、「わびた風情が古い時代を匂わせる」として講師の保坂先生一押しのだ道祖神だそう。

3.唯念と木食観正の布教の足跡

穴部には1864年建立の唯念名号



碑がある。江戸時代末期、身命を惜しまず、人々の凶難を救って尊ばれた唯念上人の遺徳を偲び、建てられたもので、名号碑には、上人の書となる「南無阿弥陀仏」の文字と、池上から駒形までの名主を含む61人の名も刻まれている。当時は上人を慕って信者になる人も多く、念仏講として小田原でも広まり、人々の信仰のよりどころとして、大変なお金をかけて名号碑を建立したことがうかがえる。

久所公民館の敷地には、木食観正の碑がある。木食観正は、江戸時代にはたくさんいた遊行僧の一人で、各地のお寺に滞在しながら布教し、自身も修行をしていた。米穀を断ち、木の実だけを食べて生き(木食)、民衆に施す加持祈祷は、靈驗あらたかたので、その評判は江戸市中にまで伝わり、御利益を求めた信者が観正のもとに殺到したと伝えられている。



相州小田原観正上人御利生記



[新屋]板碑の庚申塔



[府川]三猿と青面金剛の庚申塔



[新屋下]双体道祖神



[府川]八街道祖神



[久所]木食観正碑